

2013年11月14日 全8頁

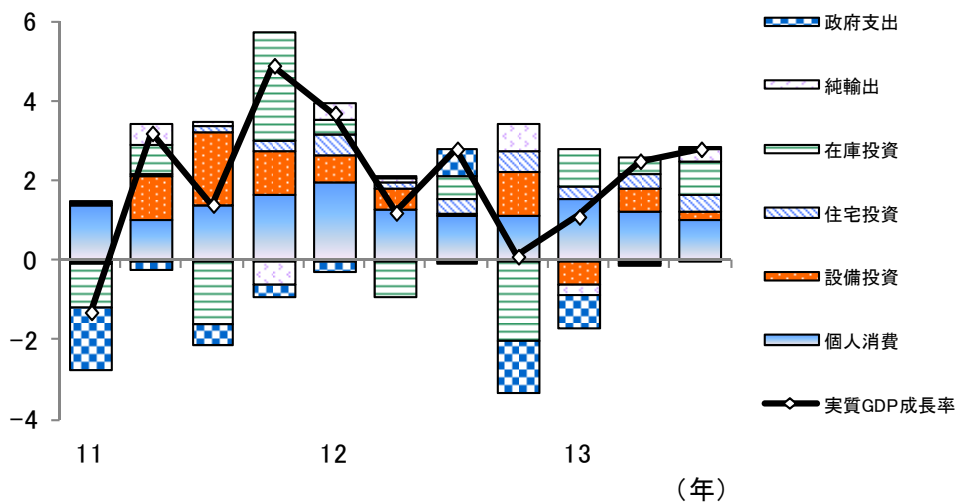
アメリカ経済グラフポケット(2013年11月号)

2013年11月11日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



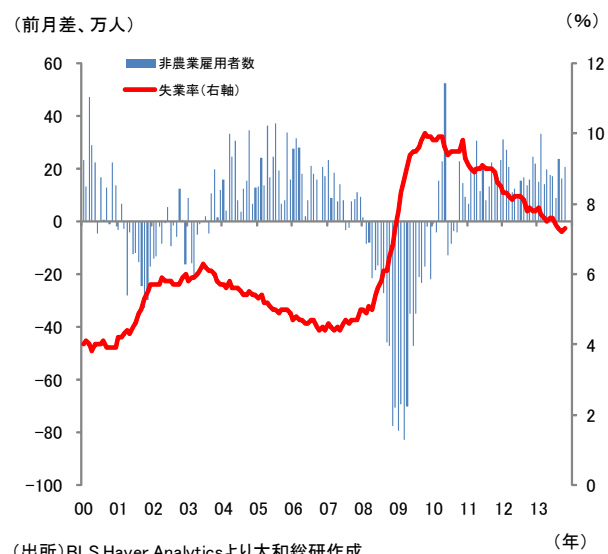
(前期比年率、%、%pt)	2011	2012				2013		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	4.9	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	2.8
個人消費	2.4	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	1.5
設備投資	9.5	5.8	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7	1.6
住宅投資	12.2	23.0	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2	14.6
政府支出	-1.5	-1.4	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4	0.2
輸出	2.7	4.2	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0	4.5
輸入	5.9	0.7	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9	1.9
寄与度								
個人消費	1.7	2.0	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2	1.0
設備投資	1.1	0.7	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6	0.2
住宅投資	0.3	0.5	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.4
在庫投資	2.7	0.4	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4	0.8
政府支出	-0.3	-0.3	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1	0.0
輸出	0.4	0.6	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0	0.6
輸入	-1.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1	-0.3

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

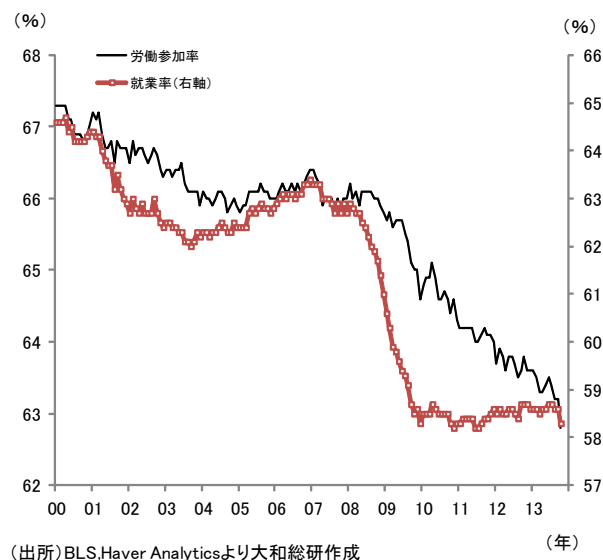
雇用環境¹

- ◆ 10月の失業率は7.3%で、9月から0.1%ポイント上昇した。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差20.4万人増で、9月から増加幅が拡大した。一部政府機関の閉鎖により一時帰休となった政府職員は、閉鎖が解除された後に賃金が支払われたため、分類上「雇用者」になった。そのため、一部政府機関の閉鎖は、雇用者数に直接的な影響を与えなかった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は17.4万人増と、緩やかな増加が続いている。

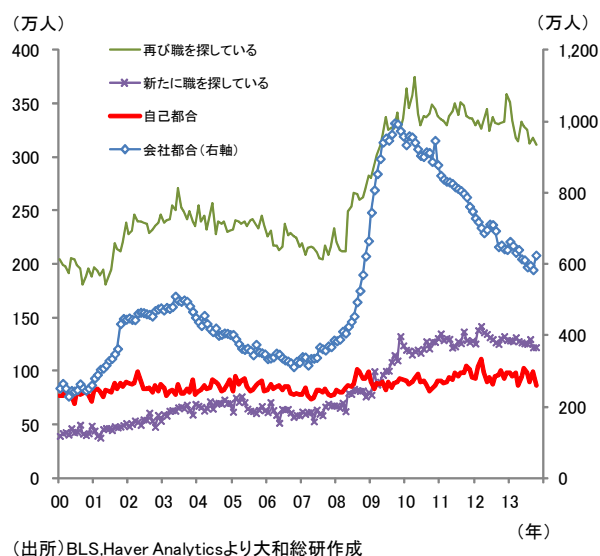
非農業雇用者数と失業率



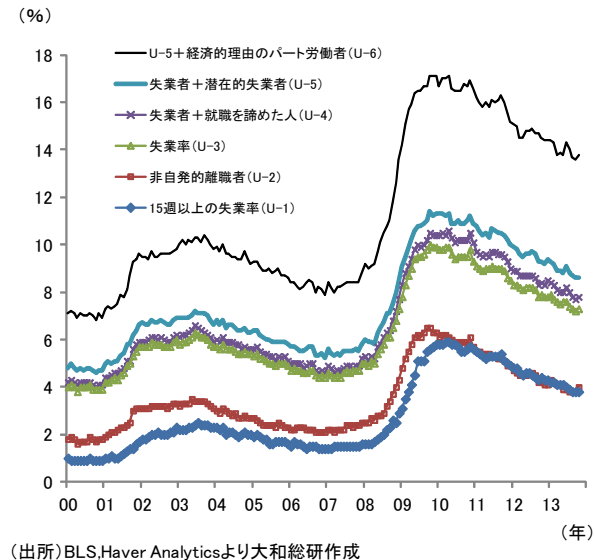
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

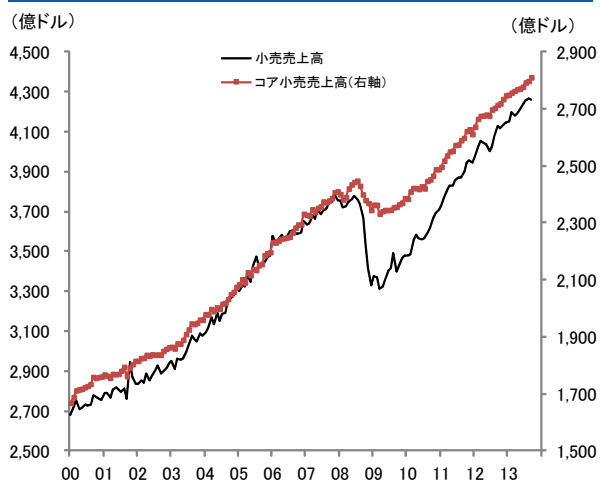


¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「強弱入り乱れる雇用環境」(2013年11月11日)参照。http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20131111_007877.html

個人消費

- ◆ 9月の個人消費は、小売売上高が前月比0.1%減。今年3月以来、6ヵ月ぶりの減少となった。一方、コア小売売上高は同0.5%増で、2012年7月以来連続で増加している。
- ◆ 11月のロイター/ミシガン大消費者センチメント（速報値）は4ヵ月連続で低下し、2011年12月以来の低水準となった。
- ◆ 10月の自動車販売台数は前月比0.3%減で、年率換算では1,523万台であった。2012年11月以降1,500万台以上を維持しているものの、今年4月以来の低水準となった。

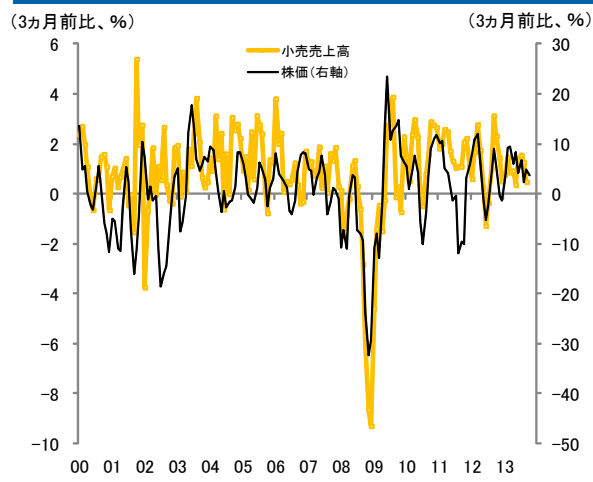
小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、
建材・園芸除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

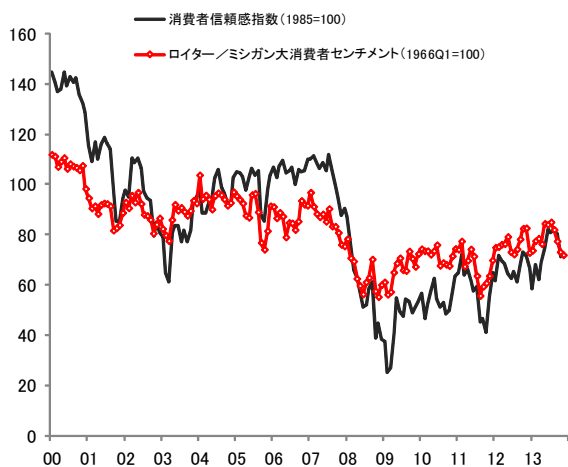
消費と株価



(注) 株価はWilshire5000。

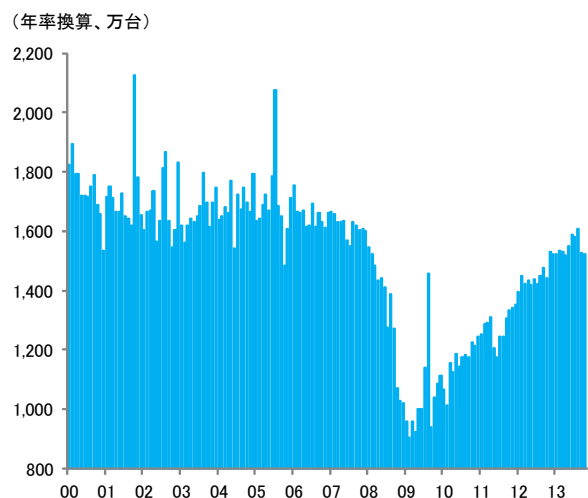
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver
Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

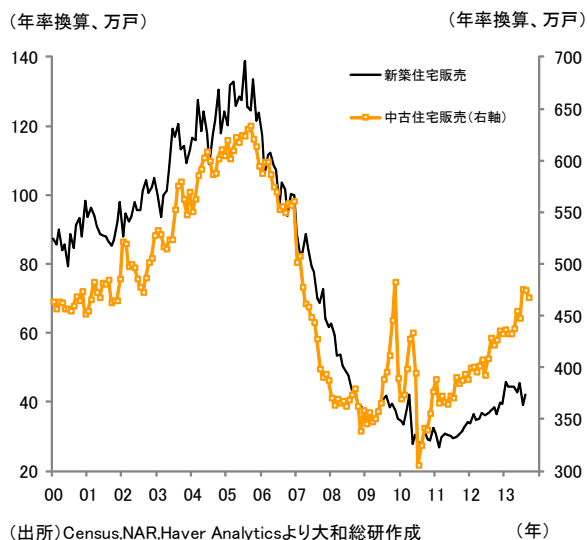


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

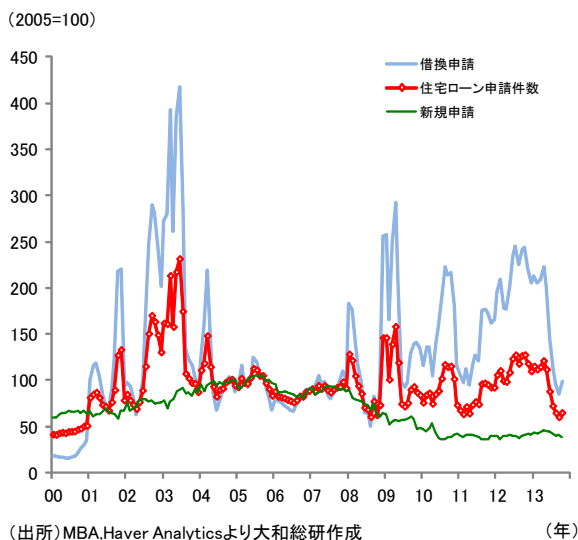
住宅市場

- ◆ 8月の新築着工は、前月比0.9%増の年率換算89.1万戸であった。
- ◆ 9月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比1.5%減の年率換算468.0万戸であった。
- ◆ 8月の新築住宅販売は前月比7.9%増と大幅に増加し、年率換算42.1万戸であった。前月から増加に転じたものの、今年2番目に低い水準となった。
- ◆ 8月の住宅価格は引き続き上昇。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2012年2月より上昇傾向が続く。

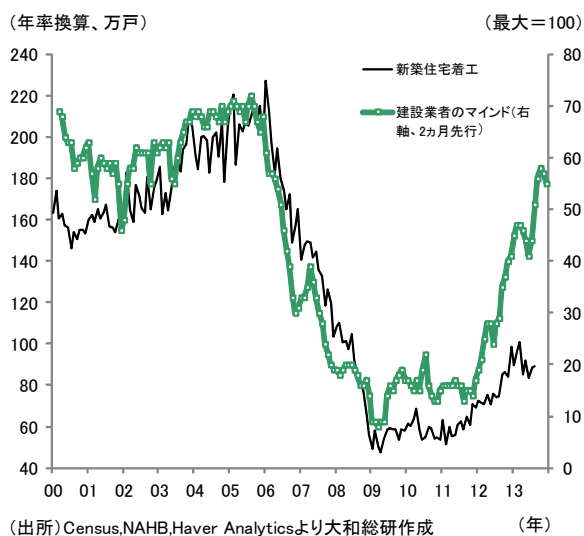
住宅販売（一戸建て）



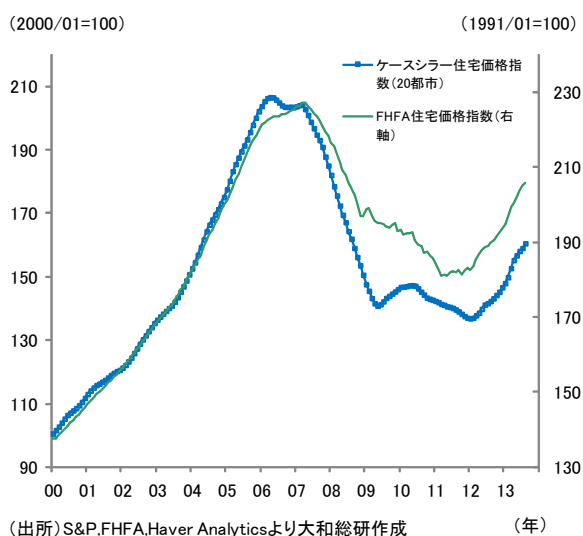
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者のマインド



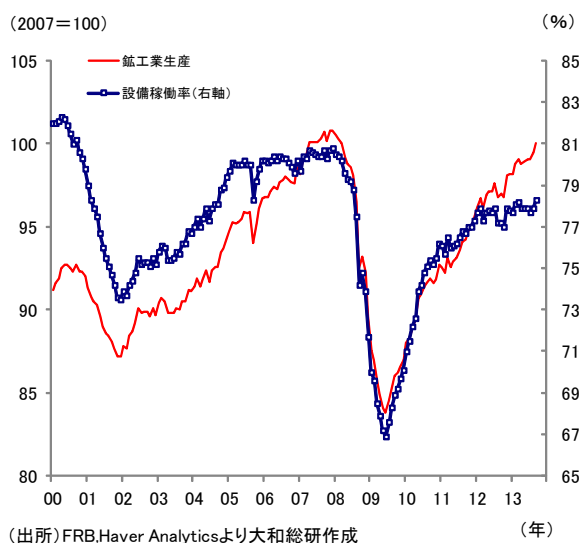
住宅価格



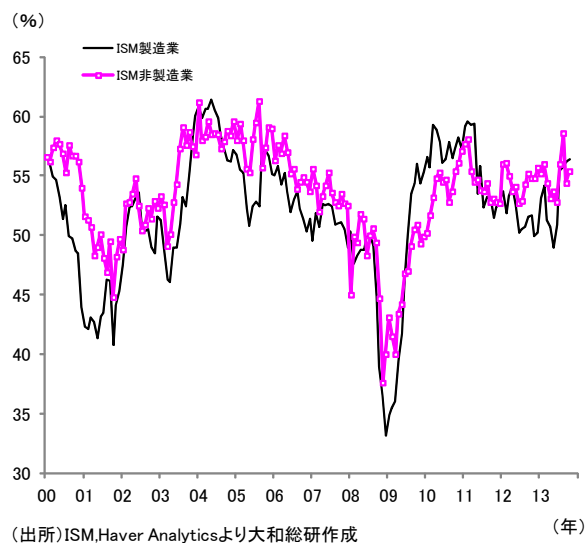
企業動向

- ◆ 9月の鉱工業生産指数は前月比0.6%増で、2008年3月以来の高水準となった。製造業は同0.1%増であった。
- ◆ 9月の国防・航空機を除く資本財受注は前月比1.3%減となった。
- ◆ 10月のISM製造業指数は、一部政府機関の閉鎖にもかかわらず、前月比0.2%ポイント上昇。景気の拡大・縮小の分岐点である50%を5ヵ月連続で上回り、2011年4月以来の高水準となった。非製造業指数も同1.0%ポイント上昇し、50%を上回った。

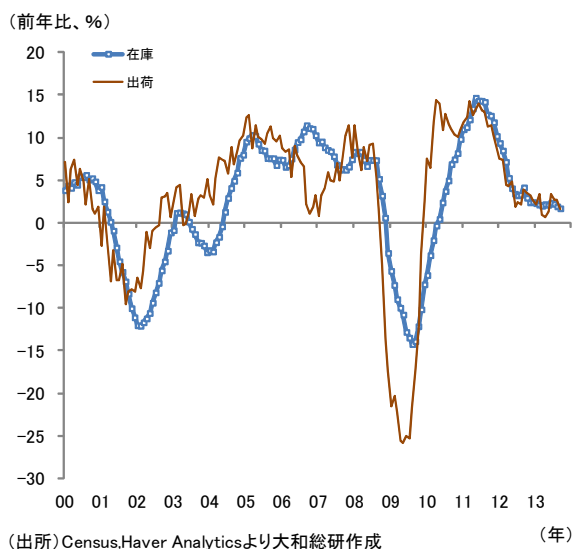
鉱工業生産と設備稼働率



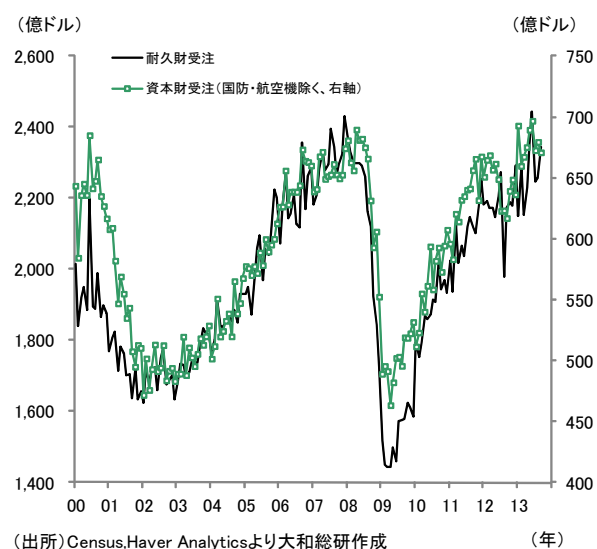
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



耐久財受注



物価動向

- ◆ 9月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.2%増、コアCPIは同1.7%増で、共に前月から縮小した。
- ◆ 10月末のWTI原油先物価格は96.38ドル/バレルと、9月末の102.33ドル/バレルから低下し、今年5月以来の低水準となった。

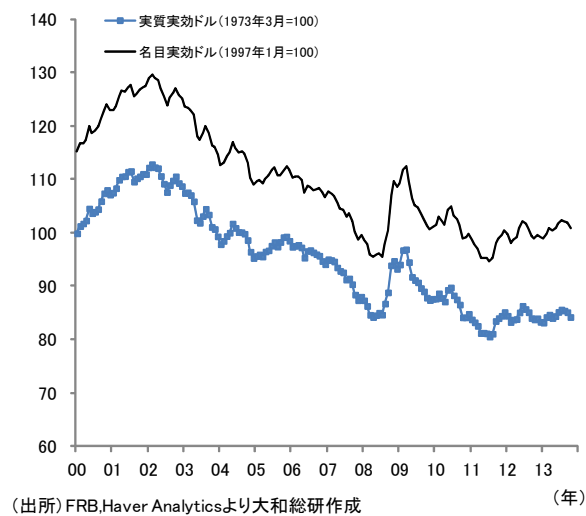
消費者物価指数



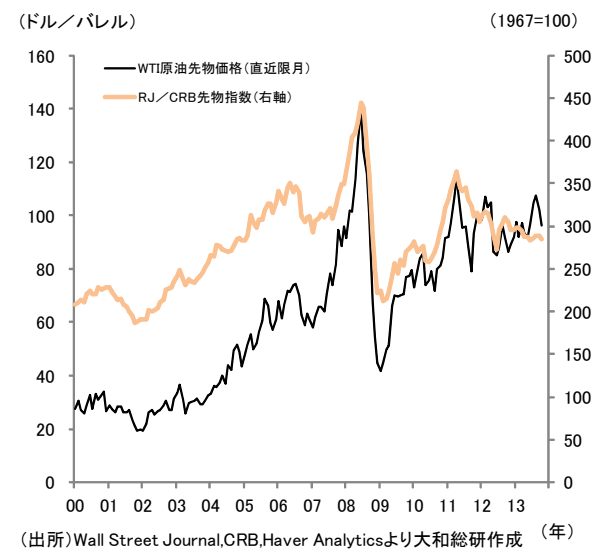
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



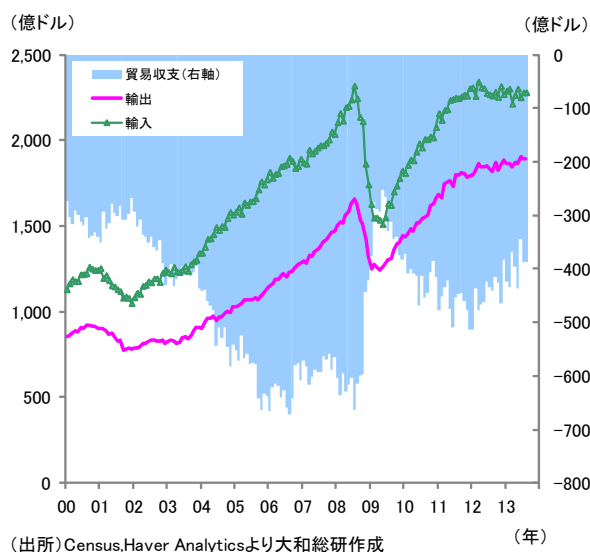
コモディティ価格



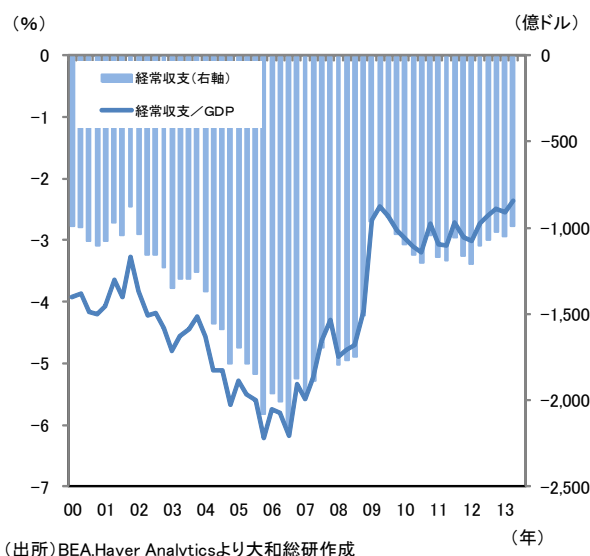
輸出入・経常収支

- ◆ 8月の貿易収支（財・サービス）は、前月比0.4%増の388億ドルの赤字となった。
- ◆ 輸出は前月比0.1%減。輸入は同0.0%増と、前月と同程度の水準であった。
- ◆ 地域別（財）では、日本向けの輸出が前年比9.3%減少し、7月の同7.4%減から減少幅が拡大した。中国向けの輸出は前年比7.7%増で、欧州向けも同1.9%増となった。輸入は、日本からの輸入が前年比6.8%減。欧州からの輸入も前年比3.5%減であった。一方、中国からの輸入は前年比5.1%増となった。

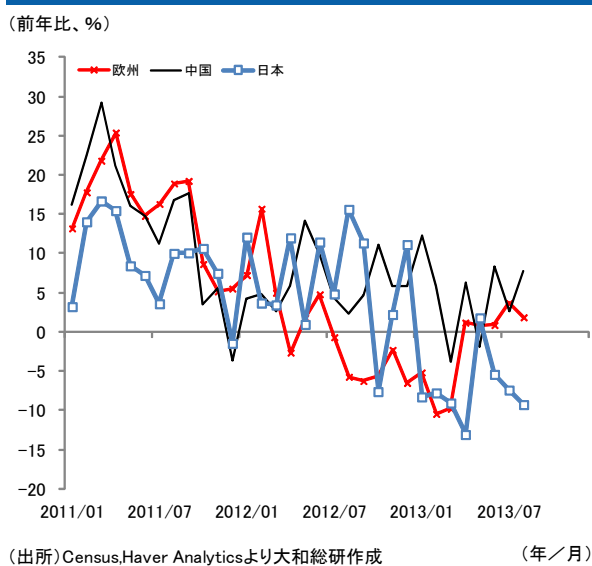
貿易収支動向



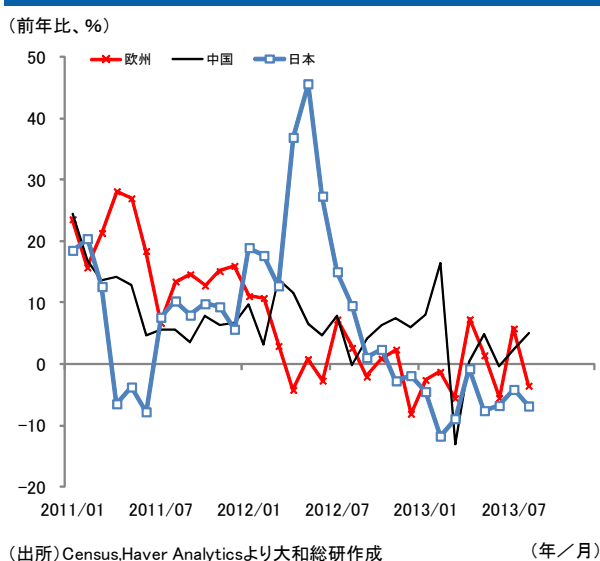
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



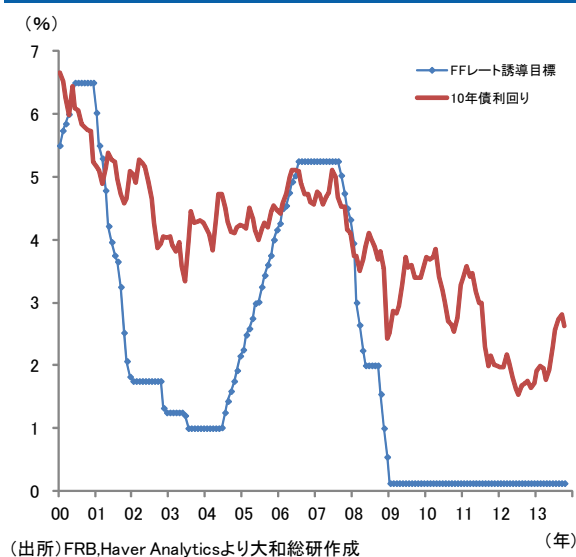
国・地域別輸入動向



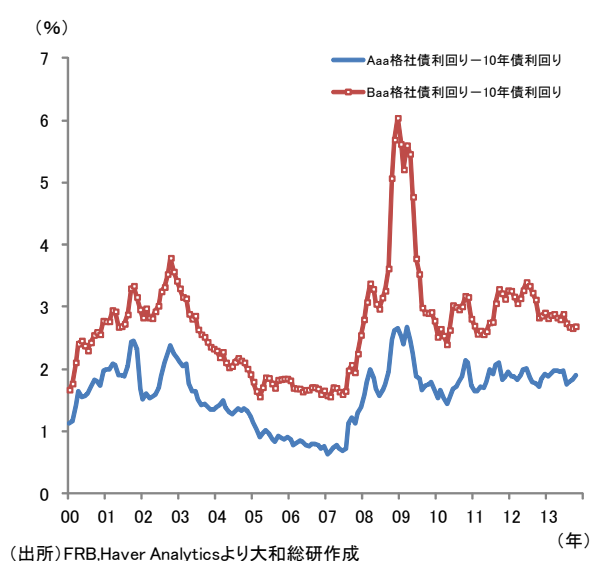
金融・財政

- ◆ 長期金利（10年債利回り）の10月平均値は2.62%と、6ヵ月ぶりに低下した。歴史的に見れば低水準が続く。
- ◆ 10月のFOMCにおいて、月額850億ドルの資産を買い入れるQE3（量的緩和第3弾）の継続が発表された。QE3を受け、FRBの資産残高は増加が続き、直近の11月6日の週平均では約3兆8,900億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支は、トレンドとして赤字幅の縮小が続いている。

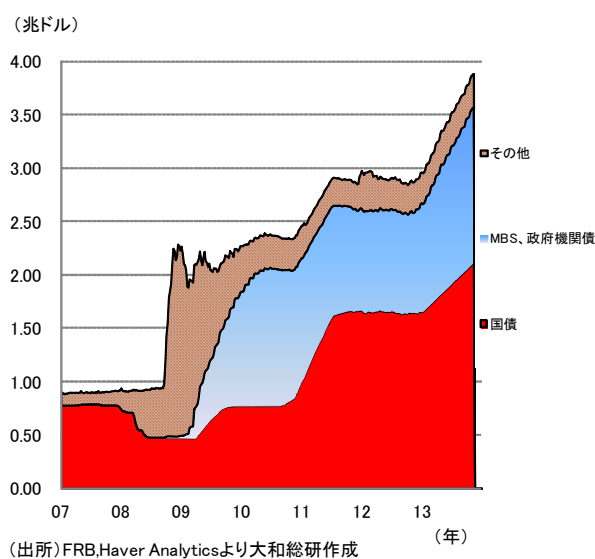
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

